

平成 29 年度 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会 第 1 回市民部会 会議録

議題	報告 ・平成28年度第3回市民部会の意見交換結果について 議題 ・平成29年度の普及啓発の実践に向けた取り組み（案）
日時	平成29年4月25日（火） 13：15～15：30
場所	茅ヶ崎市役所 本庁舎4階 会議室3
出席者氏名	部会長：齊藤 進 副部会長：海津 ゆりえ、藤井 直人 部会員：篠原 徳守、水島 修一、柏崎 周一、長 貴史 瀧井 正子、五十嵐 優子、上杉 桂子、鈴木 実、瀬川 直人 高野 幸子、湊 里香、矢野 竜也 （事務局） 都市部都市政策課、保健福祉部障害福祉課、（公財）茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
会議資料	資料1 平成28年度第3回市民部会 意見交換のまとめ 資料2 平成29年度の普及啓発の実践に向けた取り組み（案） 参考資料1 第4回茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルちらし
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	1名

(会議の概要)

1 開会

- 関野課長：本日の会議、部会員 15 名全員の出席をいただいておりますので要綱の規定にもとづき会議が成立しています。
- 斉藤部会長：議事録署名人は、長委員にお願いしたいと思います。

2 報告

平成 28 年度第 3 回市民部会の意見交換結果について

- 宮崎主任：資料 1（平成 28 年度第 3 回市民部会 意見交換のまとめ）に沿って説明
- 斉藤部会長：前回の会議では、茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバル（以下、「スポーツフェスティバル」という。）にどう連携していくか、または連携が可能か、ということが提案された。また、交流による理解促進として、おしゃべりサロンが提案された。
- 鈴木委員：スポーツフェスティバルを中心とすることであるが、視覚障害者団体の活動としてフォークダンスを実施しており、発表の場を設けたいという意見があるので、組み込んではいかがか。また、視覚障害者への理解促進として、点字体験や誘導體験等が効果的であると思う。
人を集めるために、スタンプラリー形式にして、景品をプレゼントしてはどうか。
- 斉藤部会長：議題において検討していく。
- 上杉委員：スポーツはできる人とできない人がいる。スポーツが障害者に近づくというように、誰でも体験できるようなものを取り入れることで、浸透するのではないか。そういったことを提唱している方がいるので、情報を集めようと思う。企画の内容を見て「この種目では参加できない。」と思わせないような工夫や、会場のレイアウトの工夫も必要である。
- 篠原委員：市内には、老人ホームで車いすダンスを披露する団体（特定非営利活動法人車椅子レクダンス普及会「矢車草」）があるため、そういったものを取り入れてもよいのではないか。
- 上杉委員：障害者自立支援協議会の部会の中で、今春から障害者サロンを計画しており、障害者のニーズを聞き取ったが、知的、発達、精神障害の方は、対応者にスキルが求められ、見えない部分での準備が重要と感じた。
上記の方々は対等に話をできる場が少ないので、自然な形で障害者が話しやすくする空間づくりが必要である。構えすぎることはよくないため、用意は必要

であるがそれを見せないことも求められる。大声が苦手な方や、身を乗り出されることが苦手な方など様々である。

- 鈴木委員：我々の会では、障害者とボランティアで月に1回サロンを実施しており、近況を話したり、カラオケをやったり、手の感覚訓練として折り紙を行っている。特性に応じて様々なやり方があると思う。
- 斉藤部会長：多様性に応じた対応は必要である。今後具体化する中で、このようにアイデアを出し合って、内容を膨らませていく必要がある。

3 議題

平成 29 年度の普及啓発の実践に向けた取り組み（案）

- 宮崎主任：資料 2（平成 29 年度の普及啓発の実践に向けた取り組み（案））に沿って説明
- 斉藤部会長：先ほどから、スポーツフェスティバルについて競技内容の検討やゾーニング、取り組み方法等アイデアが出されていたが、誰もが「行きたい」「参加したい」と思う内容とすることがポイントであると思う。主催は財団であるため、全てできるというものではないが、部会としての意見として調整していくこととなる。
- 瀧井委員：育成会では、総合受付での協力と会員への呼び込みを行っている。予算の話が出ていたが、景品を準備すること等はできるのか。例えば、市内の身障者施設で作っている物品を景品とするなど。
- 関野課長：予算の範囲内で少額であれば検討可能と思われる。
- 篠原委員：イオン等企業との連携を行えば、うまく準備できるのではないかと。
- 斉藤部会長：県の組織で実施しているイベントでスタンプラリーを実施しており、ほとんど企業の協賛で景品を準備している。
- 水島委員：スタンプラリーであれば子供は喜び、保護者の方の参加も促すことができる。
- 鈴木委員：スポーツフェスティバルについて、今まで主催者からの依頼で参加していた。団体から意見を持っていく場が無かったので、部会を通じて意見することで、規模の拡大や市民参加を得られるようになるのではないかと。
- 高野委員：父母の会では、養護学校の体育館を借りてボッチャを行っており、主催者から協力要請を受けて参加している。役員が委員となって会議に参加し、当日の人を集める作業等に苦戦しているが、年々やっていくうちに浸透していると実感している。昨年度は参加者が少なかったが、体育館が奥まっていることに加え、天気が良かったことが原因として考えられる。
障害者が企画、運営することは非常に難しいと思うので、サポートする方が多

くいれば有り難い。良い企画であると思うが、保護者だけで運営していくことに限界を感じている。

- 上杉委員：スポーツフェスティバルがどの属性を対象としているのかがわからないが、翔の会が利用者のために年1回開催しているスポーツイベント（動楽会）に行くことがあり、そこではどんな障害者でも楽しめるスポーツを経験できる。ここでは、障害の度合いについてある一定の水準を設けたものとするのかが不明である。
- 瀧井委員：スポーツフェスティバルは全ての市民が対象であるため、高齢者、幼児も含まれている。そうすると重度障害の方の参加は難しいかもしれない。
- 五十嵐委員：目的として「障害者の外出機会の創出」はもちろんであるが、一方市民との触れ合いによる理解促進というものもある。双方が楽しめる企画とすることが必要と考える。先ほど運営が大変という話が出ていたが、参加者を増やすだけでなく、ボランティアを多く募り、運営側として参加を促すことでより理解促進につながるのではないか。
- 鈴木委員：サウンドテーブルテニスであれば、ボランティアや我々の視障協へ協力依頼がきており、競技の紹介やお手伝いを行っている。
- 海津副部長：スポーツフェスティバルは、実行委員会が立ち上がってからどういったスケジュールで開催されるのか。
- 高野委員：実行委員会は2～3回である。4年目なので慣れてきているが、当初は頻繁に会議を開催していた。
- 財団職員：今年は8月頃に実行委員会の立ち上げを予定している。実行委員会の立ち上げに際し、市が委嘱しているスポーツ推進委員や高野委員等へ委員依頼を行っている。卓球については、茅ヶ崎レクリエーション卓球連盟に協力をいただいております。高齢者、障害者等が参加しやすく、市内では人気のスポーツと捉えている。鈴木委員の団体へも協力をいただき、サウンドテーブルテニスの紹介も行っている。
会議では、第1回に前年度の振り返りや実施内容の検討、第2回に役割分担等を確認している。今年度は11月11日（土）に会場を確保している。
- 斉藤部長：市民部会として様々なアイデアが出されているが、それらを追加することが可能なのか。
- 財団職員：提案されている車いすバスケ競技そのものを追加することはスペース的に難しいが、リングを1つ設けて車いすバスケの体験を行うこと等は、バドミントンのスペースを整理できれば可能性はあると思われる。実行委員会に諮って過去にボッチャを3面から2面に減らした経緯がある。ロビーの使用に関しても

可能性はあると考える。

- 斉藤部会長：参加者が徐々に減ってきているが、主催側としてはどう考えているのか。
- 財団職員：もう少し来ていただいてもよいと考えている。今回の事業連携によりスポーツフェスティバルの紹介やPRに繋がればよい。
- 鈴木委員：スポーツフェスティバルは今まで第一体育室のみでの開催であったが、可能であればサウンドテーブルテニスは静かな別室で開催することが望ましい。
- 財団職員：総合体育館は年間で予約が多数入っているため、新たに場所を増やすことは難しい状況である。サウンドテーブルテニスは静かな場所での開催が望ましいというのは理解しているが、別室での開催ではそこへの動線を設けることが課題であるため、あえて同じフロアでの開催とし、なるべく多くの参加者に見てもらうために現在の配置としている。
- 湊委員：聴覚障害者は耳が聞こえないだけで、健常者と同じくサーフィンやサップなどを行っている。サウンドテーブルテニスは静かな空間が必要とのことだが、我々は声を出していない気でいても、皆様には聞きなれない声を発していることがある。
スポーツフェスティバルのアンケート集計結果を見たが、参加してどう感じたか等、細かい項目も入れることで気づきの把握になるのではないかと思う。我々障害者にとっても健常者がどう感じているか理解するきっかけとなり、やりがいも感じる。
- 上杉委員：参加者が少ないとのことであるが、100人強は参加者がいる状況である。今後、参加者を増やせばいいという単純なものではないと思う。目的が、地域に障害者がいるということ気付かせるということであれば、健常者の参加を促すことが必要ではないのか。障害者がスポーツを行っている所を見てもらうことを主眼に置いてはどうか。健常者はどの程度参加しているのか。
- 宮崎主任：第1回の参加状況では、障害者と健常者はおおよそ半々であった。
- 上杉委員：全ての障害者を迎え入れるとした場合、收拾がつかなくなる恐れがあるため、やり方を変えた方がいいと思う。サロンを一緒にするというアイデアがあったが、障害者には落ち着いた環境を用意する必要があるため、別での開催とすべきであると思う。
一般の方を呼び込むのであれば、子供を中心に普通のイベントのような呼び込み、例えば先ほどのスタンプラリー等はいいのではないか。アンケートについて、誰が記入したか、性別等も記載した方がよい。
- 海津副部会長：出かけられる、出かけたいと思える環境作りと、気付き、理解促進を目的としているが、全てを達成するにはハードルが高いように思える。まずは、

お互いの理解を高めるためにイベントを実施してみるということではよいのではないか。その中で、参加者の中の障害者に出かけたいと思うこと等のアンケートを実施し、健常者には上杉委員と同様に細かい項目のアンケートの実施がよいと思われる。

- 上杉委員：障害者の中で、このようなイベントに行きたいと考えている方は大勢いるのが現状である。イベントでなくても、誰かが連れて行ってくれるならばどこかに行きたい、そう考えている障害者は多い。連れ出してくれる人がいないというのが、好きな所に行けない一番の理由である。市からイベント等の招待を受けているが、障害者に知らせたら「行きたい」となるが、連れて行く人がいないために、情報を伝えることができない。行くことができないと伝えることで、悲しませてしまうこととなる。
- 藤井副部長：外出できないということがイベント等に参加しづらいということなのかが疑問である。チラシに「地下駐車場有り」とあるように、設備的なものがハードルになっているのか、駅等からの経路がハードルになっているのか、物理的な原因も把握していければ良いと考える。体育館には十分な駐車場は存在しているのか。
- 財団職員：70 台程の駐車場がある。
- 藤井副部長：スポーツフェスティバルの際は満車状態か。
- 財団職員：満車状態ではない。有料化になってから1年半ほど経過しているが、有料化後は利用者が著しく減っている。
- 藤井副部長：利用者はどういった手段で来館しているのか。
- 財団職員：多くが自転車で来館している。駐車場が有料化になったことに伴い、イベント時でも駐車場を利用することが可能となっている。
- 鈴木委員：社協にボランティアグループがある。そういう方々はサポート方法等を熟知していると思われるため、会場の運営や誘導等の協力をいただければ、会場でのバリアの低減につながり、参加しやすくなるのではないか。
- 水島委員：ボランティアグループへの声掛けは可能であると思われるが、あくまでもボランティアなので、日程の関係などから必ず参加いただけるかは不明である。
- 斉藤部長：ボランティアの活用は今後の検討事項としていきたい。
- 海津副部長：何故外出しないのか、ということについて、もしかしたらスポーツだから外出しないということも考えられるのではないか。体が自由に動かせないなど、外出したいと思わない方もいるかもしれない。そういった場合には、サロン等でフォローすることもできるのではないか。
- 斉藤部長：スポーツフェスティバルについて、本日の意見は事務局とまとめさせてい

ただき、これを進めるためには何が課題なのか、こういった要望があるのかを踏まえて検討していくこととする。なお、主催者は財団であるため、できることとできないことがあることはご理解いただきたい。部会としてこういった連携が可能かを財団と調整し、まとめたものを次回までに報告する。

今回は、スポーツをとおして交流するという限定された企画であり、あらゆる人が楽しく過ごすといったことは、第1回からは無理があると考えている。今回はスポーツをとおして出来ることは何か、ということを見出したい。

我々はユニバーサル社会の実現やバリアフリーの推進を目指しており、多くの人が自由にまちなに出かけられる、自分の意志で移動できるようにしたいと考えているため、出かけにくい、出かけられない状況はどこにあるのか、ということはこの事業をとおして明らかにしたい。

最初から全てを完璧にクリアすることはできないため、明らかになったバリアを、第2回以降段階的に解決していく、といった進め方が望ましいと思われる。ご意見を伺って感じたが、既に実施されている団体も多くあり、そういったところといかに協力していくかが重要である。部会独自に動くのではなく、既存の団体で何をやっているのかを踏まえながら、こういった連携ができるのかを考えることも頭に入れていただきたい。

○藤井副部会長：スポーツフェスティバルについて、市民部会がこういった形で入り込んでいくのか。茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会の活動が知られていないと思われるため、同時開催として試験的にサロンを開催し、その中で活動のセミナーのようなものを開催してもよいのではないかと考える。スポーツフェスティバルの中でも協議会の広報を行ってもよいと考える。

○海津副部会長：試験的にサロンを実施してもよいと思っていたが、スポーツフェスティバルの運営が大変だというご意見があった。2つのプロジェクトを同じ場所で同じ時間に行うのは難しいのではないかと。例えば、ロビーでポスター等を使用して少人数で周知していくという程度でまずはいいのではないかと。スポーツフェスティバルに参画していくのであれば、運営のサポートについての方がよいと感じた。

○湊委員：今すぐでなくてもよいが、いずれは文化生涯学習課で実施している市民学び講座を利用してサロンを開催していければと思う。

○上杉委員：所属している団体でサロンの開催を予定しているが、対象を悩んでいる状況である。2つ考えており、1つは委員会等に参加している障害者について、障害があることで入ってくる情報が制約されているため、委員会に則した意見をできない場合がある。そういった方をエンパワーするためのサロンがいいので

はと考えている。一方で、対等な立場で意見する機会が無い方の掘り起しや声を集約するためのサロンも検討している。まずは、意見する機会の無い方のためのサロンを実施しようと考えている。両者を対象に同時に実施していくことは非常に難しいと考えている。

- 鈴木委員：視覚障害者がサロンに行って、他の障害を理解することは難しいと思う。出発点として、こういった形で障害特性を知るか、ということを考えなければサロンは成り立たないのではないかな。
- 海津副部長：色んな人がいる中でサロンを実施するには、進行役が重要である。それぞれの障害特性を上手く引出し、コミュニケーションを取ることができるような進行が必要となってくる。
- 上杉委員：海津副部長の言うとおりで。視覚障害者や聴覚障害者は既に団体の中で発言の場を持っていると思われるが、知的・発達・精神障害者はコミュニケーションが上手くできる状態ではないため、ある程度対象を絞る必要があると考える。
- 斉藤部長：行政として、障害特性ごとの講座等は実施しているのか。
- 吉永課長補佐：障害特性ごとではないが、障害全体の理解として障害者差別解消法等の理解を進めている事業がある。
- 斉藤部長：障害特性別に実施することは良いと思うが、市民部会としてどこまでできるのかが見えない状況である。既に長い期間取り組みを進められている団体もあるため、そういった取り組みを支援していくのか、新たに何かを立ち上げるのか、どちらがいいのかということのを常に考えているが、既存の取り組みとの連携が有効であると思う。
- 柏崎委員：この市民部会はバリアについて議論する場であり、障害者を応援するというだけではなく、障害者と市民の間にあるバリアをどう解消していくか、ということが目的である。様々な障害特性があるため、複雑に考えずに徐々に理解を深めていければよいのではないかな。色々なことを考えすぎても進まないと思う。
- 高野委員：仰々しく「サロン」というのではなく、障害者が楽しめる場所があればそれだけでよい。挨拶や握手、簡単な会話をするだけでも「そこに行けば楽しい。」と思える空間が必要である。まずはそこから進めるべきであると思う。
- 斉藤部長：自然に楽しめる場所が必要である。
- 上杉委員：柏崎委員や高野委員と同感であり、障害者を見ている時に思うのが、対等な立場として認めてもらうことが少なく、共に笑いあったりする場が意外に少ないと感じる。対等な立場の相手と話せる環境作りが必要なのではないかな。

○齊藤部会長：先日、山下公園で開催されたダウン症の理解促進を目的としたイベント「パディウォーク」に参加してきた。デモ行進をするものではなく、参加者が来て楽しみながら、ダウン症について理解する、といったものである。誰かが何かを説明するわけではなく、自然とダウン症について理解するような仕組みとなっている。先ほどから意見が出ているように、まさに「自然に楽しみながら障害者との交流を行う」というものである。是非こういった取り組みを、今後私たちも進めていければと感じた企画であった。

なお、次回までに本日の意見をまとめ、検討課題を詰めていくこととする。

4 その他

○特になし

5 閉会

○宮崎主任：本日の意見を踏まえ、個別のご連絡を差し上げる場合がございますのでよろしくお願いいたします。次回の開催は、6月頃の開催を予定しており、皆様には改めてご連絡差し上げます。

部会長署名 齊藤 進

部会員署名 長 貴史
